

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生公務員専門学校福岡校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について	- 7 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、麻生公務員専門学校福岡校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏 名	所 属(役職)	出欠
業界関係者	小山 浩俊	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会(包括支援課長)	欠席
業界関係者	中島 賢一	公益財団法人 福岡アジア都市研究所(フェロー)	出席
業界関係者	白井 宏幸	自衛隊 福岡地方協力本部 福岡地区隊(福岡地区隊長)	出席
有 識 者	阿部 昭彦	一般社団法人 SDGs未来ラボ(代表理事)	出席
高等学校	大坪 洋二	久留米学園高等学校(教頭)	欠席
地域住民	小林 芳光	博多駅南 2 丁目 4 区(民生委員)	出席
卒 業 生	末武 勝信	卒業生	出席
保護者等	西野 弥栄子	在校生ご家族	出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時:2026年7月8日(水)14:30 ~ 15:25

場 所:麻生塾福岡キャンパス 9号館 5階 953教室

(※一部参加者はオンラインで出席)

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2025年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果、課題及び改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1)自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2)今後の解決方向が適切かどうか
- (3)学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4)その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

評価基準

- 3:基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている
- 2:概ね基準を満たしている
- 1:基準を満たしておらず改善が必要

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

- (1) 独自性の強化(大学に負けない独自性)
- (2) 新たな価値創出のための挑戦
- (3) 教育の可視化・効率化
- (4) 行動計画の徹底

【取組み状況及び総括(成果と課題)】

取組み状況

(1) 独自性の強化(大学に負けない独自性)

本校の強みの一つとして、公務員採用試験の高い合格率が挙げられる。

(2) 新たな価値創出のための挑戦

本年度より、完全通信制の中上級オンラインコースを設置した。公務員試験の中級、上級試験を目指す受験者の多くは大学生や転職を希望する社会人などで、受講に対するニーズも多様化している。それらのニーズ対応するため、本校で準備した授業動画をオンデマンド方式で受講できる講座を新設し、学生募集を開始している。

(3) 教育の可視化・効率化

本年度より、出席管理や学生満足度、授業理解度の把握のための新システム(Manabie)が導入された。従来、紙の出席簿に記入し、その後、システムに入力していたものを、Manabie では授業内で教員がパソコンやタブレットを用いて出席入力することで、出席状況が自動でシステムに反映することができる。また、学生がスマートフォンで毎回の授業後に感想等を入力し、教員がそれにフィードバックすることによって学生の理解度や満足度などを随時、確認しながら毎回の授業を進めることができる。

(4) 行動計画の徹底

上記、重点項目に加えて、合格率、退学率などの各種目標達成に向けて、年度当初に年間計画を作成し、毎月のクラス運営報告書などの各種報告書等で進捗を確認しながら学校運営を行った。

成果と課題

(1) 独自性の強化(大学に負けない独自性)

担任制による学生ひとりひとりへのフォロー体制を充実させている点は大学と比較するうえでの独自性と言える。と考える。

大学は在校生全員が公務員を目指しているわけではないので、合格率を単純に比較することは難しい。そこで、国家公務員一般職の合格者数を共通の指標とすることで、九州のどの大学よりも国家公務員一般職に合格者を輩出している教育機関として、本校のアピールポイントにする。

(2) 新たな価値創出のための挑戦

中上級オンラインコースについては、まだ募集を始めた段階なので具体的な成果を判断することは難しいが、今後、初級公務員試験に向けた講座や通信課程も検討し、遠隔地での受講希望者や、経済的、精神的などの理由で従来の専門学校の授業に通学することが困難な学生に対する授業を提供できないか検討を進める。

(3)教育の可視化・効率化

本年度より、新システム(Manabie)が導入されたことによって出席入力などが効率化できる予定ではあったが、導入が遅れ、年度途中からの運用開始になった。そのため、従来の出席管理と新システムによる管理の二重に行う必要が生じ、逆に業務効率が著しく悪化した。

(4)行動計画の徹底

公務員試験の合格率や学生募集の状況も好調で、大きな問題なく円滑に学校運営が行われている。

【委員からのご意見】

・重点項目の(3)教育の可視化・効率化に関して、出席のシステム導入は正確に迅速な出席管理ができて効率的だと思います。

・同じく重点項目の(3)教育の可視化・効率化について、毎回、授業ごとの感想を学生に提出させているとありますが、毎回の提出は学生の負担になるのではと気になりました。また、チェックする先生にとっても負担が大きいことが懸念されます。

・「教育の可視化・効率化」は学校側だけでなく、学生側からも可視化・効率化できているとのこと、理解しました。

・重点項目の総括(1)独自性の強化(大学に負けない独自性) のところで、国家公務員一般職の合格者数を共通指標としているとあり、九州のどの大学よりも合格者を輩出している実績について質問させていただきました。エビデンスを示して説明があったことで理解しました。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果: 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

定められた法人の理念・学校の教育理念・各学科の教育目標を、学校構成員(すべての教員、職員、学生)に対して、教務室内掲示・学生便覧配布(読み合せ含む)により周知を行っている。学生便覧については、教職員・学生ともに個人配付されていることから、常時確認が可能な状態である。また、関連業界・社会に対しては、ホームページの情報公開欄に掲載し、常時公表している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2	2
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2	2

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果: 適正

- 2-1:学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか
- 2-2:事業計画を作成し、執行しているか。
- 2-3:運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。
- 2-4:人事・給与に関する制度を確立しているか。
- 2-5:情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

年度初めに教職員全員を対象に「キックオフ会議」(当該年度における学校の運営方針・年度目標について、教職員全員で共有および認識統一を図るための会議)を開催して共有し、教職員全員が運営方針についての理解を深め、共通の目標に向けて一体となって働くことを促進している。

また、キックオフ会議に加えて、関連資料を電子メール配信で共有し、周知を徹底している。

事業計画は、年度当初に校長代行より「キックオフ会議」(当該年度における学校の運営方針・年度目標について、教職員全員で共有および認識統一を図るための会議)を通じて教職員全体で共有し、認識を一元化している。

また、計画の執行においては、各学科・学年の単位ごとに事業計画に基づき適切に実行されている。

さらに、年度途中での振り返りの機会を設定しており、各部門の状況共有を行っている。

法人において明文化された運営組織および意思決定機関の仕組みのもとで運営されている。理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会が適宜開催され、組織運営上の重要課題について合議がなされている。

また、校長代行が参加する部門長会議等、各階層別・目的別の会議体が設計されており、これらに参画し、法人方針の共有と学校運営への反映を行っている。会議は計画的に開催され、有効に機能している。

学校の意思決定について、初級学科では学科・学年別の教務会議、これらを集約する初級教務会議を行っている。同様に、中上級学科では、中上級教務会議を開催している。運営会議は、定例での開催に加えて、必要に応じて都度開催しており、いずれも問題なく機能している。

事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策として、毎月、定期的に事務職員会議を実施し、行動計画の進捗確認や情報共有を行っている。また、外部で実施される研修にも積極的に参加している。

法人で整備された雇用区分ごとの就業規則および各種人事諸規程、労使協定に基づき運営している。これらは法令を遵守して整備されている。また、法人の運営方針や労働関連法令の改正に応じて規程の見直し・改定が行われており、その内容を教職員へ周知し、適切な運用に努めている。

法人で定められた給与規程(または一部雇用形態については就業規則)に基づき、法令を遵守した給与制度のもとで運用している。これらの規程は法人内共有フォルダ等を通じて教職員に公開されており、本校においても透明性の確保に努めている。

法人で整備された昇給・昇格制度を含む人事制度に基づき運営している。制度内容は教職員に公開されている。また、法人の基本方針を踏まえつつ、社会情勢や物価動向等を勘案し制度の見直しが適宜行われており、その運用において公平性・妥当性の確保に努めている。

法人で定められた採用規程に基づき、適切な募集・採用を行っている。採用にあたっては、当該部署の責任者が採用稟議を起案し、求める人物像を明確にしたうえで選考を実施している。また、法人本部および関係部門と連携した採用体制のもと、面接から内定判断まで規程に則って運用している。さらに、選考状況や内定辞退の状況等を確認し、採用プロセスの妥当性について検証を行っている。

情報システム化においては、学生情報の管理システムおよび業務処理に関するシステムが構築され、年次の更新に加え、必要に応じて修正や更新が適切に実施されている。これらの情報システムを活用することで、業務の効率化が図られ、学校運営において各種情報が有効に活用されている。

また、2025 年度の年度途中より、出席管理や学生の授業の理解度・満足を図るための新システム(Manabie)が導入されたが、年度途中からの変更ということもあり、業務効率化という点で十分に活用できているという状況ではない。一方で、この Manabie には、動画コンテンツ配信や学習状況を把握するための学習管理システム(LMS)の機能もあり、これを用いて授業を行う教員も数名いた。

【課題及びその改善方策】

年度途中でのシステム変更、非常勤講師を含む教職員への周知不足、旧システムと新システムの混在などによる混乱で、逆に業務負担が大きくなっているという課題がある。この点に関しては、新年度が始まる前から十分に準備を行い、業務負担が減るように改善が必要である。

また、LMS の活用に関しては、今後、活用事例の共有や勉強会などを実施して、スムーズな運用を図る。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	2	2
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	2	2
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	2	2
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	2	2
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	2	2
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	2	2
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	2	2
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	2	2
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	2	2
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	2	2
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	2	2
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	2	2
2-5-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	2	2

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果: 適正

- 3-1:教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。
- 3-2:教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。
- 3-3:教育の評価を適切に行っているか。
- 3-4:成績評価と単位認定を適切に行っているか。
- 3-5:教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

ディプロマ・ポリシー(教育理念および教育目標に基づく課程修了の方針)と、それらに基づき構成されたカリキュラムポリシー(教育課程編成実施方針)は、学生便覧(学校生活で学習と学生生活に関する情報が記載された冊子)にて明確に示されている。教育課程は、このディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づいて編成・実施されている。学校構成員に対してディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを周知するために、学生に対しては各クラスで担任教員による学生便覧の読み合せを実施し、常勤教職員と非常勤講師に対しては、教務室内に掲示物を設置して確認可能な状態としている。また、これらの情報はホームページ上で広く社会に公表している。さらに、教育課程に関する定期的な検証は、年間計画立案時に実施されている。

様々な公務員試験の受験先において、共通して設定されている試験科目を教育課程に体系的に組み込み、教育課程編成・実施方針に基づいた授業を展開している。各授業についてはシラバス、コマシラバスを作成し、それらに基づいた授業を行い授業記録も残している。

公務員リテラシーの授業では、公務員の種別、職種内容、業務内容などに関する知識を身につけつつ、各個人が進路選択に必要な知識を得るとともに、社会問題や課題について考察し、分析し行動する力を養成することを目標としている。公務員としての国家・地域社会への貢献や自己実現について検討する機会を提供し、教育課程編成委員からの提言を取り入れたゼミ活動においては、官公庁・自治体・公務員に対する社会の要請がいかなるものであるかを捉えさせ、様々な社会課題に対する理解と課題解決に向けていかなる取り組みが求められるかの具体的考察を促すことで、実践的な職業教育の実現を目指している。また、公務員である卒業生からの助言や様々な講演会・説明会を通じて、実際の職業理解を促進し、社会人基礎力の向上を目的としたビジネス実務(スーツの着こなし方、ビジネスマナー等)やコミュニケーションに関する実践的な学びを提供している。

授業評価において、前期と後期の2回、学生への授業アンケートおよびホームルームクラスアンケートを実施し、その評価結果を担当教員へフィードバックしている。このフィードバックは、授業とクラス運営に関する評価や改善点を伝え、内容の良化を促すことを目的としている。

授業内容および授業方法の改善を図るため、勤務年数が3年未満の教員に対しては授業研修を実施し、教員同士で助言を行いながら改善を進めている。また、授業録画システムを活用し、他の教員の授業を視聴することで、授業スキル向上を促進している。これらの取り組みを通じて、より質の高い授業を提供できるよう努めている。

また、共通科目の担当教員が集まり、学習指導要領の改定内容の共有や授業内容の検討を行う勉強会を定期的に実施している。この勉強会では、試験の出題傾向や頻出項目などの情報を共有し、授業内容の取舍選択やテキストや配布資料の改訂などに役立てている。また、毎年、その年に実施された本試験の問題の解説を教員が分担して作成し、相互チェックを行うことで、授業内容を常に最新のものに更新している。

成績評価・単位認定、進級・卒業判定に関する基準は明確に規定されており、これに基づいた学生に対しての説明

は、学生便覧を用いて新年度開始後のオリエンテーション等の機会を通じて行われている。成績評価基準はシラバス(教科についての目的、内容、成績評価基準などが示された教科概要)において周知されており、本校ホームページでも公開されている。このように、成績評価と単位認定の基準が明確に規定されていることを学生に周知徹底している。

成績評価・単位認定は、日常の学習状況と定期試験等を総合評価し、規程に基づいて客観的に決定している。

進級・卒業に関しては、単位取得状況と出席率および在籍状況を規程に基づいて評価し、客観的な判定が行われている。オンライン授業における成績評価・単位認定についても、所轄庁および法人の基準に則り、適正に実施されている。これにより、学生に対して公正かつ一貫した成績評価が提供され、進級や卒業の判定も客観的かつ適切に行われている。

専修学校設置基準および他の法令を厳格に遵守しており、教員要件および定員に対する法令上必要な人員を正確に配置している。専門性と経験値を備えた教授能力を有する教員が確保され、その中には質の高い非常勤教員も含まれている。教員組織は公務員中上級、公務員総合科 2 年、公務員総合科 1 年、公務員専攻科で構成されており、これらを事務部門が支える体制となっている。これらの各部署間では日常的な協力・協働がなされ、活発な意見交換や情報共有が行われており、教育内容の向上、円滑な学校運営の実現が図られているとともに、問題が発生した際には組織全体での対応がなされている。

教員の専門性や指導力の維持のため、常勤教員が公務員試験の解答解説や模擬試験を作成している。また、出題傾向の分析と類似問題の作成によって、各教員の担当教科の専門性が向上している。教員の指導力向上には法人主催および学外研修会への参加、教科部会、人物試験研究会の実施が中心となっており、特に、新任教員は提携先企業(公務員試験教材出版社)主催の学外研修への参加を通じて、資質および能力の向上を図っている。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

・これまでのところ、評価結果がすべて2ということでしたが、素晴らしい活動をされているので、私はもっと3が付いていてもよいのではないかと感じました。

・教育現場というものは特段変わったこと(奇をてらうようなこと)をする必要はないと思っています。毎年高い合格実績を出していて、学生ひとりひとりが学業に励んでいて、ということそれだけでもう特筆すべきことではないかと感じます。

・学生アンケートは教員にとって、とてもプレッシャーだと思います。メリット・デメリット両面からのバランスが大切だと感じます。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2	2
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2	2
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	2	2
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	2	2
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	2	2
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	2	2
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	2	2
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	2	2
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	2	2
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	2	2
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	2	2
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	2	2
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	2	2
3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	2	2
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	2	2
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	3	3
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	2	2

3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	2	2
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	2	2
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	2	2
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	2	2
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	2	2
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	2	2
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	2	2

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

4-1:学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

就職率・就職者の割合の向上の取り組みとして、公務員試験合格者を向上させ、公務員への就職を実現している。公務員試験合格率において、年度当初の目標を上回り、高い合格実績を達成した。公務員試験結果に関しても、受験先別に傾向分析と情報共有がなされ、次年度以降に向けて有用な情報を整理している。

退学率の低減を図るため、退学懸念のある学生については、担任教員に加え、学年教員、校長代行が情報を共有し、ご家庭とも迅速かつ積極的に連携を取り対応している。併せて、対応・面談記録を確実に基幹システム内に入力することで、情報セキュリティにも配慮しつつ情報共有を図るとともに、学生個々人の状況に応じた適切な指導を行っている。また、退学が発生しやすい時期には、学科行事において、退学防止に繋がるような企画をその年度ごとに立案している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

・公務員試験に受かることが最大の目的だと思いますが、辞めない公務員、実務で貢献できる公務員の輩出も大切なポイントのように思います。退職率などについての追跡調査は現状行っていないとのことでしたが、公務員の業務説明会や職場見学、卒業生が休暇で立ち寄った際など、年間を通じて卒業生との接点があることを聞き、卒業生との良い関係が築けていると思いました。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	2	2
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	2	2
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	2	2

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果: 適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

学生の進路支援に関しては、担任、学年教員、それぞれ連携を図りながら適切に実施している。学生相談については、Microsoft Teams(マイクロソフトチームス)の各種機能を活用し、担任以外の他の教職員にも相談できる体制を整えている。また、専門的な相談内容については、法人全体の専門相談体制が整備されており、連携を取り対応している。

学生の経済的側面に対する支援は、各種の公的支援情報を迅速に伝え、学生支援担当者や法人の担当部門が窓口として対応している。

学生の健康管理についても、年に1回の健康診断を実施し、日々の体調不良者に対しては保健室を利用し対応している。また、AEDを設置し、定期点検を実施している。

学生に対しての修学支援と生活環境支援について、麻生専門学校グループ福岡キャンパスおよび学校はそれぞれ支援体制を整備し、適切に運営されている。

保護者等との連携に関しては、入学式後の公務員受験に関する説明会や、電話による学生の学校生活状況の確認、進路選択における三者面談の実施、SNSや年間4回の保護者通信発送による学校活動の紹介など、連携は密に行っている。

学生の課外活動に対してはサークルや部活動を推奨し、多くの学生がスポーツや音楽、資格取得などの活動に取り組んでいる。

社会人学生への支援体制に関しては、夜間講座などの働きながらの受講可能な時間割の作成、オンライン教材の提供など、修学環境の整備は行われている。

入学前教育の学習支援に関しては、公務員試験制度や勉強方法に関する動画を配信し入学前から学習の準備を支援している。また、3月下旬には1週間程度のプレ授業(入学前授業)を実施している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

・5-1-6にある保護者等との連携という点で、保護者対象の説明会がとても有意義でした。試験のしくみを知ることができ、子どもの今後1年間の動きがよくわかりました。

・私は本日、大分から参りました。子どもが2年コースに在籍して、寮生活させていただいていますが、担任の先生をはじめどの先生も丁寧に指導していただいていると感じます。今年2年生で受験なのですが、現在がこういった状況で、どんなところを受験していくのかということとその都度その都度ご連絡いただいている、ひとりひとりにとても一生懸命にご指導いただけていると実感しています。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	2	2
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	2	2
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	2	2
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	2	2
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	2	2
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	3	3
5-1-7	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	2	2
5-1-8	社会人学生への支援体制を整備しているか。※	2	2
5-1-9	学生に対する修学支援体制を整備しているか。	2	2
5-1-10	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。	2	2

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果: 適正

6-1:教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

6-2:教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

既存施設・設備については、通常利用に支障が発生しないように保守・管理を徹底し、教育活動が滞りなく実施できる環境を整備している。教育効果が期待できる新たな施設・設備については、予算を確保し導入をすることができ、今年度においては、2階フロアをフリースペース化し、学生たちがのびのびと自由に過ごせる環境を整えることができた。

麻生専門学校グループ福岡キャンパスの共用施設として、総合図書館を設置している。総合図書館では、規程やルールを定め学生便覧に掲載すると共に、教室内へ利用案内を掲示する等、学生への周知を図っている。また、固定資産管理規程に基づき、図書や雑誌を含む資料類を適切に管理している。

学校における安全管理については、校長代行を中心とした組織体制を整え、指示・伝達を Microsoft Teams や電子メールを用いて迅速に行っている。

学生の安全確保を図るために、施設設備の整備・点検を随時行っている。特に防災・防犯設備に関しては、法人管理担当部門と密な連携を取り、漏れのないように細心の注意を払っている。

防災においては、避難場所を明確にできる表示を各教室内に設置・更新し、常時確認できるようにしているが、防災訓練は避難経路の確認に留まっており、「訓練」は実施できていない。

【課題及びその改善方策】

防災訓練については、実施時期、形式について検討し、できることから確実に実施する。

【委員の方からのご意見】

・図書館の利用状況についての説明を聞いて、利用率の把握は行っていないとのことでしたが、利用率を上げるための工夫として購入図書のリクエストを行っていることなどを新たに知りました。とてもよい取り組みだと思いました。

・図書館を利用する目的として、職業理解・キャリアプランなどの学びのために調べ学習を行うことがあり、活用を促していると聞き、図書館や自習室が設置されていることによって学習意欲の支えになっていると感じます。

・唯一評価1となっている防災訓練については、実施していないのではなく、実施しているが不十分との意味合いで評価1になっていることがわかり、集団での避難訓練も今後実施の予定があるということで安心しました。

・福岡市内の小中学校では、各学期に火災や地震などを想定した防災訓練や、交通安全教室などが組み込まれています。また、防災訓練・避難訓練に関連して、学校は一般の方にも開かれた空間でもあるため、不審者対策も必要になってきました。不審者対策として警備会社との契約と防犯カメラの設置、それから教務室にサスマタを用意していることを聞き、今後より実践的な対策に繋がることを期待します。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	2	2
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	2	2
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	2	2
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	2	2
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	1	1

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果: 適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)については、学校の教育理念や育成人材像を反映させ、具体的な方針を策定し、その内容を募集要項および学生便覧を通じて広く周知している。また、社会への情報提供として、ホームページの情報公開欄に詳細なアドミッション・ポリシーを掲載し、公表している。教育成果を含めた学校情報についても、実績を元に学校案内、ホームページ、SNS(LINE、インスタグラム)、オープンキャンパス説明資料などで明示し、公表している。

学生募集活動においては、学校法人麻生塾の募集担当部門と連携し、適切に計画・実施している。入学者選抜に関しても、アドミッション・ポリシーに基づき、法人の担当部門と協力し、公正かつ公平なプロセスで選考を行っている。

校納金等については、定期的な検証を踏まえ確定し、募集要項にその金額を明記して入学希望者等に適切に公表している。これにより、入学に関わる情報が信頼性のある形で提供され、入学希望者が正確な情報をもとに意思決定できる環境を整備している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

・入学者数が増えているのであれば、7-1-2は評価を3としてもよいのではと思います。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	2	2
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	2	2
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	2	2
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	2	2
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	2	2

基準 8 財務

学校関係者評価結果: 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえる。

予算計画は、学校運営計画に即した編成を行っている。予算執行についても、計画に基づき適切に執行されているかどうか確認を行い管理している。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。

なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を適切に公開している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	2	2
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	2	2
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	2	2
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	2	2

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果: 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行うよう努めている。また、関係法令に基づく学校の管理運営に関する学内諸規程についても、新たな法令の制定や改正があった場合には適宜対応し、これらを正確に遵守し、学内で適切に運用している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	2	2
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	2	2

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

自己点検・評価活動の遂行において、担当委員を任命し、その委員を中心にして自己点検・評価、学校関係者評価、および公表といった各プロセスを確実に実施している。具体的には、自己点検・評価において、各教職員に対するアンケート調査を通じて、実施されている取り組みや未実施の課題を明確にし、「できていないこと」を課題として具体的に設定するようにしている。

職業実践専門課程の認定維持要件である学校関係者評価についても、整備された実施体制に基づき、適切に実施している。また、学校関係者評価委員会で出た意見を参考に、教育内容や課外活動の見直しを行っている。

社会に対する説明責任を果たす観点から、自己点検・評価結果および学校関係者評価結果を確実に公表している。これにより、透明性を確保し、関係者に対して適切かつ明確な情報提供を行っている。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

特になし

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	3	3
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	2	2
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	2	2
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	2	2
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	2	2

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果: 適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

地域への貢献や公務員に関する情報提供を通じた社会への参画活動は、学校の教育資源や施設を有効活用し、特に高等学校の生徒・教員を対象に、訪問型、来校型、およびオンライン型の3つの形態で実施している。公務員の職種や試験制度に関する詳細な説明を提供することで、生徒たちの将来に向けた進路選択に有益な情報を提供している。特に、現役高校生を対象とした公務員受験講座は、来校型とオンライン型の2つの形態で開催し、柔軟な受講選択が可能となるような体制を整えている。この取り組みにより、部活動に所属している生徒や遠隔地域の生徒にも対象を拡大することができている。

学生のボランティア活動においては、地域の各種団体からの依頼を受けて関連情報を学内で共有し、必要に応じた取りまとめを行っている。さらに、ボランティアサークルの活動報告の機会を設けることで、学生たちの意欲を促進している。学校からの留意事項の指導と助言を通じ、活動をサポートし、地域社会への貢献意識を高める取り組みを行っている。近年では、学生がより自発的に新たなボランティアを探すように働きかけ、多くの学生がボランティアに参加できるような仕組みとして運用している。

補足:我々は公務員を輩出するにふさわしい学校であるためにも社会貢献・地域貢献には特に力を入れて取り込んでいます。昨年は大阪万博に関連するボランティアの実績もございました。また、もっと地元での地域貢献として、美野島地区での取り組み例をご紹介します。公民館との連携を図り、継続的なボランティア活動を計画して取り組むものです。これまで単発のボランティアが多かったので、継続的に取り組めるプログラムになればと考えております。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

・地域貢献ボランティアについて、我々地域として、いろいろとご協力いただいております。特に公民館でのボランティアは今回初めてですので、大変期待しております。ありがとうございます。今後いかに長く継続していくかということが必要になってくると思います。ぜひよろしくお願いします。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	3	3
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	3	3

基準12 国際交流

学校関係者評価結果: 適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

海外語学留学プログラムの学内説明会を行い、別途個別相談の場も設けている。申し込み者に対しては、オリエンテーションや英語勉強会を実施しており、学生・保護者等向けの説明会では、渡航先情報や必要な準備、現地での心構え、たびレジ(外務省からの最新の安全情報を日本語で受信できる海外安全情報無料配信サービス)等の情報共有を行っている。学生とはチャット等の連絡ツールで常時連絡が取れるようにしており、質問や相談の受付、情報共有等を行っている。外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応している。

補足:国際交流に関しては、本校学生が海外に出て経験を積むというものと、麻生塾内にいる留学生との交流を行うものという2つがあります。前者については、本校からもインドネシアでのボランティア活動に参加した学生がおります。海外の経験を積んで将来に生かしてほしいということから、この場合の渡航費用は法人から出る仕組みになっておりまして、学生は経済的負担が少なく国際交流を経験できるようになっています。また、後者については、グループ校の日本語科の学生との異文化交流サークルを継続して運営することで、国際交流をより気軽に、身近に経験できるよう取り組んでおり、活発に交流させていただいております。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし

【委員の方からのご意見】

・渡航費用を法人で負担する取組み、素晴らしいと思います。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
12-1-1	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	2	2

以上